## ４．水郷旧家「磯山邸」

### （１）磯山邸の建築の特徴

磯山邸は明治３２年に建築された日本家屋を改築した、古き良き時代の潮来の佇まいを残した古民家です。

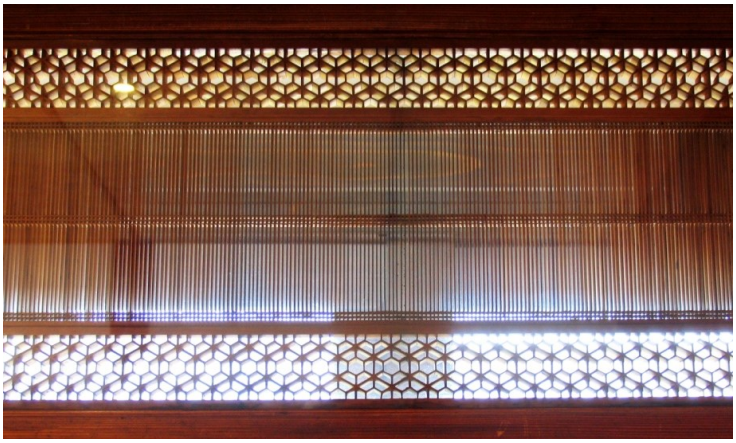
ＪＲ潮来駅から歩いて約７分の所にあります。施設は、延べ床面積約１１０平方メートル　の木造平屋建て。間取りは１０畳１間と８畳２間で、いずれも和室で、家の西側には約９０平方メートルの広さの庭もあります。

建物としての特徴を挙げると、土間から内部を見上げると、太い梁（はり）と約３０㎝角の欅（けやき）の大黒柱が目に入ります。さらに、３種の組子細工が施された引戸があり、東側の壁には微細な彫刻が施されている欄間を移設した窓枠があります。

磯山邸の入口　土間からの構造

また、床の間の横には非常に精緻な組子細工の窓があり、この組子細工を作成するだけで、腕のいい職人でも半年は要するという、往時の潮来職人の巧みな技のすごさが感られます。

畳の部屋に上がると、４つの提灯箱があり、次の間には欅製の重厚な神棚が設置され、西側から南側にかけての外周の廊下はすべて欅の板が使われており当時の生活が偲ばれます。



床の間にある組子細工の窓

### （２）磯山邸の現在の使われ方

潮来市は磯山邸の活用のため、茨城県では初めて地方創生事業として、白壁の内部に筋交いを設置し耐震強度を高め、畳や内装もリニューアルして各種観光用のイベント会場などに活用を進めました。最大の特徴はこの古民家を１棟丸ごと宿泊施設として活用しており、宿泊料金は 55,000 円(税込み)で、最大１０人で利用でき、古き良き潮来の風情や日本家屋の生活を楽しめるスポットとして利用されています。

道路を挟んで南側の前川では、初夏の「水郷潮来あやめまつり」の期間中に「観光ろ舟」が行き交い、大人気の「嫁入り舟」のイベントでは、花嫁が磯山邸からあやめ園までを、ろ舟と人力車で往復する際の起点・終点になっており、多くの観光客に楽しみを与えています。

前川の河岸には、江戸時代の物流の中心の河岸となった津軽河岸が再現され、そこに石蔵が建てられ磯山邸とタイアップすることで観光スポットとしての活用が図られています。